

# 音楽科学習指導案

指導者 岡 本 礼

- 1 日 時 平成18年5月12日(金) 3校時
- 2 学 級 2年3組 男子20名 女子16名 合計36名 北校舎2階 第1音楽室
- 3 題 材 歌声をみがこう

## 4 題材について

本題材では、学習指導要領第2学年及び第3学年A表現(1)イ『曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌うこと』をねらいとしている。使用する教材には、生徒が実際に取り組む曲として「夢の世界を」、多様な歌声を理解するために使用する曲として「若人の歌」、「kum bayah」等を扱う。「夢の世界を」は各パートとも無理のない声域で歌い合わせることができる曲で、短時間で音取りができ、自分たちの声作りのための教材として適していると考えられる。他の教材には声の多様性、曲種に応じた発声に気付かせることができる曲を選択した。

生徒たちは、合唱に意欲的に取り組んでいる。これまでの様子から、明るい声で元気よく歌うこと、歌詞や記号からその曲にふさわしい歌い方を工夫しようという気持ちがあることなどが見て取れる。また、アンケート(36名中35名に実施)の結果から、ほとんどの生徒が日常生活においても音楽に親しんでおり、音楽に対する関心は高い。合唱についてもあまり好きではないと答えているのは男子4人のみで、他の生徒は「好き」(16人)または「まあまあ好き」(15人)と答えている。しかし、発声練習の様子などから、中音域においての女子の地声が目立つことや、高音域では女子は響きが無くなり、男子はのどをしめて苦しそうな発声になることなどの課題もみられる。今後はこれまで取り組んできた合唱活動を生かしながら、さらに自分たちの声に着目させ、曲に合った、無理のない発声の仕方や言葉の表現を工夫させ、より高い表現の技能を身につけることが必要であると考える。

そこで、この題材を通して、一人一人の持つ声の特徴やよさを知り、それらを合わせることで広がる声の可能性に着目させ、これまでの合唱活動で付けてきた技能をさらに高めることを目標として、表現を工夫させたい。本時では曲種によって様々な歌声があることに気付かせ、自分たちが合唱の際に目指す歌声を考えることと、目標達成に必要な工夫点をグループごとに見いださせたいと考えている。

## 5 指導と評価の計画(別紙)

## 6 本時の達成目標

音楽への関心・意欲・態度	様々な種類の歌声に興味を持ち、それぞれの良さや特徴を知るために真剣な様子で聴いている。
音楽的な感受や表現の工夫	様々な歌声を聴き、それらの特徴や良さを感じ取り、自分たちの表現に生かすための具体的な方法を挙げることができる。
表現の技能	工夫点を生かして歌うことができる。

## 7 本時の指導の構想

### (1) 指導構想及び留意点

曲種にあった歌い方があることに気付かせるために様々な歌声を聴く活動を行う。その後、合唱において自分たちが目指す歌声について話し合いを持たせ、具体的にどのような点を工夫すれば目標に近づくか考え、発表させる。留意点は、音色を表す際に豊富な「ことば」が用いられるよう例を示すなどの工夫をする。

### (2) かかわり合いを生かす手だてについて

前時およびアンケートにより、生徒たちは合唱する(歌う)上で困っていること挙げており、それらが本題材における学習課題の「必然性」となっている。本時では、様々な声を聴くことで得た感覚を「よりどころ」としながら、グループでの話し合いを行う。また、音色を表す「ことば」にふれさせること、また、工夫することを具体的な行動の「ことば」に置き換えることで今後の歌唱活動が抽象的なものから具体的なものへと変化するようにさせたい。

8. 本時の展開

< A > 達成度 < B > 学習速度 < C > 取り組み方(学習の仕方)  
 < D > 見方・考え方 < E > 興味・関心 < F > 生活経験

段階	過程	時間	学習活動	評価の視点・方法	指導上の留意点	学習形態 教材・教具
導 入	課題確認	10分	1. 呼吸トレーニング、 発声練習を行う。  2. 「夢の世界を」を練習 する。  3. 本時の学習課題を把握する。  <b>本時の学習課題</b>  自分たちの目指す歌声を考え、歌い方を工夫しよう		1. 歌う雰囲気がつくられるようテンポ良く進める。表情や姿勢など基本的なことを呼びかける。	
展 開	課題追 求	30分	4. 音色を表すことばを確認する。  5. 様々な歌声を聴き、 それぞれの特徴について考え、発表する。  6. 歌声の多様性から、 自分たちの合唱にはどのような歌声がふさわしいか考え発表し、学級で目指したい歌声をことばでまとめる。  7. 目標に到達するために必要な工夫点について話し合い、発表する。発表されたことをもとにして、実際に声を出してみる。	5. 【音楽への関心・意欲・態度】  様々な歌声の特徴や良さを学習シートに記入し、発表する。  記述内容・発表内容 A：声の響かせ方・民族性・人数・性別・年齢・曲種・豊富な形容 C：紙板書の中からふさわしいと思うことばを選び出し、学習シートに記入させる。  7. 【音楽的な感受や表現の工夫】  グループで話し合いながら、工夫点を学習シートに記入し、発表する。実際にやってみる。  発表内容・表現練習 A：喉の状態・体の状態・響き・複数のパターンを試す C：他の生徒の意見から良いと思うものを選び、学習シートに記入させる。練習時では取り組みやすい工夫点を示し、声がけをする。	4. 前時に生徒に考えさせておいた「音色を表すことば」をまとめ、全体で確認させる。また、他にも付け足したいことばがないか考えさせる。 A  5. 様々な曲種にふれることにより、自分たちの合唱にもそれにふさわしい歌い方があるのだという必然性を作る。 E 曲調や歌詞に着目するのではなく、どのような声か、どのような声の響かせ方をしているのか、という観点(よりどころ)で聴くようにさせる。 D 様々な曲を聴くことによって自分たちの合唱に役に立つ知識が得られるという必然性を持たせて聴かせる。  6. 最初に挙げたことばをよりどころとしてふさわしい表現を的確なことばで表すよう助言する。  7. 目標に近づくために具体的にどのような歌い方にすればよいのか、できるだけわかりやすいことばで発言させる。 具体的なことばで表現できない場合、適切な助言を行いながら実際に声を出させ、違いを感じ取らせる。 C	紙板書  C D  学習シート  板書
終 結	まとめ	10分	8. 工夫したことを生かして「夢の世界を」を歌う。		8. 発声の仕方が明らかに変わった点、さらに工夫がほしい点を助言し、次時への意欲と練習の必要性を理解させる。 E	

2年音楽		題材名 歌声をみがこう			総時間 3時間扱い	
学習指導要領の指導事項 A表現 イ 曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌うこと。						
題材の目標		主な学習活動	評価規準	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
・一人一人の持つ声の特徴、声の多様性、声の持つ可能性に着目させ、これまでの合唱活動で身につけてきた技能をさらに高めるために表現を工夫できる。		声のカード作りを行い、自分の声についての理解を深める。  様々な歌声を聴き、話し合いを通して目指す歌声を明らかにして工夫点を考える。  工夫点を生かして歌う。	B = 「おおむね満足できると判断される状況」	曲種による発声の多様性に関心を持ち、意欲的に聴き取り説明できる。	様々な歌声から声の多様性を感じ取り、発声や歌い方をどのようにしたら目標に近づけるか考え、目標に迫るための工夫点を記述したり発言したりしている。	自分たちが考えた工夫点を生かして歌おうとし、その違いを自覚して表現している。
			A = 「十分満足できると判断できる状況」の例	曲種による発声の多様性に気付き、それぞれの特徴や良さを積極的に説明しようとしている。	様々な歌声から声の多様性を感じ取り、発声や歌い方をどのようにしたら目標に近づけるか考え、目標に迫るための工夫点を複数の観点から記述したり発言したりしている。	自分たちが考えた工夫点を生かして歌い、曲種にあった発声を身につけて周りとの調和させながら美しい響きで歌っている。
			C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例	自分の声や、曲種の違う歌声を聴いて、それぞれについて短いことばで説明を記入させる。	歌声の多様性に着目させ、どのような違いがあるか自分のことばで短く記述させる。	教師が工夫のポイントを示し、その点について意識して歌うことができるように声がけをする。
次	時	主な達成目標	主な学習活動	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
1	1	声が出る範囲や大きさ、質などの観点から自分の声について考え、ことばにすることができる。	声のカード作りを行い、自分の声についての理解を深める。	自分の声について関心を持ち、進んで声の特徴についてことばで表そうとしている。	自分の声の特徴を感じ取って、より良い合唱活動のための自分の課題に気付くことができる。	
2	1 本時	様々な歌声の特徴や良さを感じ取り、それらを生かした工夫点を発表することができる。	様々な歌声を聴き、話し合いを通して目指す歌声を明らかにし、工夫点を考える。	様々な種類の歌声に興味を持ち、それぞれの良さや特徴を知るために真剣な様子で聴いている。	様々な歌声を聴き、それらの特徴やよさを感じ取り、自分たちの表現に生かすための具体的な方法を挙げるることができる。	
3	1	工夫を生かして歌うために必要な発声を知り、より曲種にあった、美しい歌声で歌うことができる。	合唱練習をする。	より良い合唱のための発声を意欲的に身につけようとしている。		より良い合唱のための工夫点を心がけながら歌い、今までよりも曲種にあった歌い方ができる。